特集 社会ネットワーク分析の展開

社外取締役市場の拡大と兼任構造

黒　木　裕　鷹
森　田　啓　介 CMA
高　野　海　斗 CMA

目　　次

1．はじめに
2．制度背景と先行研究
3．データと指標の定義
4．結果
5．考察
6．課題と今後の展望

有価証券報告書から13時点の役員パネルを構築し、担い手の参入と兼任による企業間接続の変化を記述する。社外取締役席は2015～26年に2.4倍となり、新任社外役員の半数以上は直近5年に上場企業役員として観測されない。他方、連結性は高まったが、各人物の兼任社数と各企業の社外役員数を固定した無作為化の期待値を2019年以降一貫して下回る。観測結果は組み合わせの偏りを生む経路を解明する手がかりとなる。

黒木　裕鷹（くろき　ゆたか）
Sansan株式会社 研究員。2020年３月、東京理科大学大学院工学研究科修了。同年４月より現職。主な著書に、『データのつながりを活かす技術―ネットワーク／グラフデータの機械学習から得られる新視点―』（技術評論社、2025年、共著）がある。大阪公立大学客員研究員。

森田　啓介（もりた　けいすけ）
Nomura Asset Management Singapore Limited 株式運用部ポートフォリオマネージャー。2019年、東京工業大学工学院卒業。同年４月、野村アセットマネジメントに入社。資産運用先端技術研究部を経て、2024年より現職。2025年、南洋理工大学Master of Science in Asset and Wealth Management修了。

高野　海斗（たかの　かいと）
株式会社ABEJA データサイエンティスト。2021年３月、成蹊大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。同年４月、野村アセットマネジメントに入社。資産運用先端技術研究部にて、自然言語処理を活用した投資戦略の研究開発に従事。2026年８月より現職。主な編著書に、『Kaggleではじめる大規模言語モデル入門―自然言語処理〈実践〉プログラミング―』（講談社、2026年、共編著）がある。成蹊大学客員研究員、大阪公立大学客員研究員。

©日本証券アナリスト協会　2026